

令和元年度 白石町立北明小学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
<p>地域のよさをいかし、夢をもち、未来を担う学校づくり</p> <p>◇ かしく(知) : 確かな学力・知恵を磨く</p> <p>◇ やさしく(徳) : やさしく人と関わる力を培う</p> <p>◇ たくましく(体) : 健康で元気な態度を育む</p>	<p>○基礎・基本の学力の向上</p> <p>○学ぶ意欲と思考力・判断力・表現力の育成</p> <p>○望ましい学習習慣と学習態度の育成</p> <p>○人と協調し、人を思いやる心の育成</p> <p>○自らを律する心の育成</p> <p>○人と関わる力の育成</p> <p>○望ましい健康生活の習慣化、学校体育の推進</p> <p>○食育の推進と性教育の実施</p> <p>○特別支援教育の推進</p> <p>○教育相談の充実</p>

達成度

A : ほぼ達成できた

B : 概ね達成できた

C : やや不十分である

D : 不十分である

3 目標・評価							
① 確かな学力・知恵を磨く							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ち高める目的で、読み語りや授業を全職員が実施する。	・伝記などの本を読み聞かせをしたり、佐賀の偉人の名言やオリンピック選手の生き方などを朝会で紹介したりすることを通して、夢や生き方について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	A	・全職員が朝のお話タイムや読書タイムで、伝記などの本を読んだり、夢に向かって努力した偉人の名言を紹介したりした。また、道徳や学活でも取り扱った。時期に応じた効果的な取組も必要である。	・児童の発達段階や実態に応じた本や名言を集め、適切な時期に紹介するようにする。その際、考えたことを「読書の記録」に書くようにする。また、名言を掲示する。
	●学力の向上	基礎・基本の学力の向上	・学期末に実施する漢字・計算フェスタでの合格者を90%以上にさせる。 ・CRTや学習状況調査の結果を前年度より向上させる。 ・授業中は自分の考えを持ち、発表できる児童を90%以上にさせる。	・漢字・計算フェスタに向け目標を設定して取り組ませ、主体的な学習態度を向上させる。 ・学年の実態に応じ、計画的に級外等を配置し、知識の定着と活用を図る。 ・学校教育活動全般において、児童が自分の考えを交流する活動を取り入れる。	A	・漢字・計算フェスタに向け、計画的に取り組みがなされ、児童も自学等で練習に取り組んだ。合格者も95%を上回った。 ・学習状況調査の12月調査では、4～6年生全教科において県平均正答率を上回った。CRT到達度検査においても全学年全教科全校平均を上回った。 ・授業中自分の考えを発表する児童は73%であった。今後も全校の共通実践である「話し合い活動」を授業の中に位置づけ表現する機会を増やしていきたい。	・家庭学習の効果的な出し方や評価のしかた等について、共通理解を図ったうえで家庭と連携をとるようにする。 ・授業では必ず考えたことを話し合い、深い学びになるように授業改善を図る。
		望ましい学習習慣と学習態度の育成	・学習用具等を忘れずに準備できる児童を90%以上にさせる。 ・家庭学習を忘れずにし、自主学習も頑張る児童を90%以上にさせる。	・年度当初に「学習の約束」を確認し、「かつお」を合言葉に共通理解のもと、準備の習慣化を図る。また、学級だより等で家庭に協力を働き掛ける。 ・「家勉強週間」を毎月設定し、目標学習時間が達成できるよう家庭と協力して進める。	A	・学習用具等を忘れずに準備できた児童は91%であった。2学期当初に「学習の約束」の再確認をしたため、「かつお」を合言葉に学習用具等の準備は意識して行っている。個人的に声かけが必要な児童への手立てがいている。 ・家庭学習を忘れずにし、自主学習も頑張る児童は86%であった。家勉強週間は回を重ねるごとに目標時間が達成された。家勉強週間ではない時の取組が課題である。	・学習規律に関して、個別の支援が必要な児童がいる。そのため、図や写真等で分かりやすく指導・支援していきたい。 ・家勉強週間では、土日の取組についても意識を高めたい。また、家勉強週間が日常の習慣になるよう、家庭との連携を図りたい。
		TTや少人数指導等によるきめ細かな指導の充実	・各教科の単元テストにおいて、学級平均が期待得点を超えるようにする。 ・年度末での到達度テストで80%以上の得点率となるようにする。	・進捗計画や、到達度について各教科で再点検を行い、教材開発を行う。 ・算数については、TTや少人数授業を学習内容や児童の実態に応じて実施する。 ・わかる授業作りに向けて、教材研究や教材の準備等を、学級担任とTT担当者が共同で行う。	A	・進捗や教材準備については担任と相談しながら進めることができた。 ・アンケート結果より、TTや少人数指導が好きと答えた児童が90%を超えており、理解度も92%と効果が見られた。 ・前期のまとめのテストでは、5年生以外は期待値80%を超えることができた。	・算数アンケート結果を精査し、より個に応じた指導形態をとり理解を深めていく。 ・5年生においては、低位の児童の個別指導の機会を増やし学力の定着を図る。
	○ICT利活用教育の充実	ICTを利活用した「わかる授業」づくり	・ICTを活用した授業を全職員が実施する。	・長期休業中にICT利活用に関する職員研修を実施し、ICTの授業への活用スキルを高める。 ・デジタルとアナログ双方の利点を生かし、児童が学びやすい活用方法について研修等を行う。 ・ICT支援員を活用し、新学習指導要領全面実施に向けてプログラミング学習の実施と研修を行う。	B	・デジタル教科書を中心に、児童の実態に合わせてデジタルとアナログを使い分けた学習指導ができていた。 ・プログラミング学習について資料は示したが、担当任せになった。	・プログラミング学習は、授業のモデルになるような動画視聴するなどして、実践的な研修を取り入れていきたい。 ・全学年で系統的にPCの取り扱い方やモラル学習を行えるように年間計画の見直しをする。
学校運営	○図書館教育	読書指導の推進と読書の習慣化	・朝の読書タイムの充実を図る。 ・学級での読書活動を促進し、授業での活用をすすめる。 ・毎月の「家読デー」で、家庭での読書推進を図る。 ・「読書の記録」を活用する。 ・年間読書冊数を平均200冊以上にさせる。	・図書館の環境を委員会の児童と一緒に工夫し、本への興味関心を高める。 ・読書タイムやボランティアによる読み語りを実施し、本に親しませる。 ・調べ学習等での図書館活用を促進し、関連書を増やしていく。 ・「めざせ〇冊カード」「〇冊達成賞」などで読書の意欲づけを図る。 ・家読(うちどく)を奨励し、定期的に図書だより等で保護者に呼びかける。	A	・読書週間のイベントや児童集会の図書委員会の発表、昼休みのブックトーク会などで、読書推進ができた。 ・毎月の「家読デー」で、家庭での読書推進ができた。 ・「読書の記録」を活用して、本の内容を記録し、残すことができた。 ・「年間読書冊数を平均200冊以上にさせる」を3年生、4年生が達成できていた。 ・調べ学習等での図書館活用を促進していきたい。	・全児童が本への興味関心を高めるために、図書委員会の児童と一緒に取り組みを考え、実行する。 ・読書タイムやボランティアによる読み語りを実施し、本に親しませる。 ・調べ学習等での図書館活用を促進し、関連書を増やしていく。 ・「めざせ〇冊カード」「〇冊達成賞」などで読書の意欲づけを図る。 ・家読(うちどく)を奨励し、定期的に図書だより等で保護者に呼びかける。
		○教職員の資質向上	校内研究の充実	・「特別の教科 道徳」において、「考え、議論する道徳」を意識した授業づくりができる教員を80%以上にさせる。	・道徳教育推進教員を中心に、また、校内研究において「考え、議論する道徳」の授業づくりに関する研修会を実施する。 ・道徳の授業では、交流活動を取り入れた授業を実践していく。 ・「ふれあい道徳」参観において、「考え、議論する道徳」を踏まえた授業を公開する。	A	・今年度は、全体研やグループ研で全学年授業を公開し、「考え、議論する道徳」について共通理解を図ることができた。今後も、「特別の教科 道徳」において、「考え、議論する道徳」を意識した授業づくりができる教員を80%以上にしていく。 ・道徳の授業では、交流活動を取り入れた授業を実践することができた。

② やさしい心・関わる力を培う							
教育活動	○環境美化	無言掃除の徹底	・無言掃除に懸命に取り組む児童を90%以上にする。	・毎週月曜日に行う無言掃除集会を通して、無言掃除の意義を考えさせる。 ・教師も児童とともに掃除に取り組み、無言掃除ができていない児童を認め、褒める。 ・無言掃除集会や掃除の時間に、掃除の仕方や掃除用具の取り扱い方、後始末の仕方などを順序立てて丁寧に指導する。	A	・週始まりの無言集会で、育てたい5つの心を意識させるような話を全職員で取り組むことができた。 ・掃除のふりかえりで友だちのいいところを発表する児童が増えた。 ・9割の児童が無言で掃除はしているが、そうじの仕方を順序立ててできるように手立てをしていきたい。	・掃除場所の人数が少ないところがあったので、クラスの人数を考えて計画を立てる。 ・無言集会を引き続き行い、掃除の仕方や掃除用具の取り扱い方、後始末の仕方などを順序立てて丁寧に指導する。 ・教師も児童とともに掃除に取り組み、無言掃除ができていない児童を認め褒める。
	●心の教育	人権・同和教育の充実	・「気になる子」を中心に据えた「一人一レポート」に全職員が取り組む。 ・部落差別についての学習を、人権教室などで取り扱う。	・PTAを対象とした「人権・同和教育」の講演会を実施する。 ・12月に人権集会や人権学習を実施する。 ・みんなの歌として、人権について考える内容のものを選択し、練習する中で人権についての考えや気持ちを高める。 ・人権学習の教材などを使いやすい準備する。	A	・12月人権週間、人権標語コンクール、学級の人権宣言、ありがとうのメッセージカードを送る活動、人権集会、各学級での人権学習等を通して、友だちを大切にしようとする心情を育てることができた。メッセージカードを題材にして学級活動などでの指導や、人権学習の補充を行っていきけるよう、情報提供をした。	・人権学習や、部落問題については、指導のための教材は、使い易いようにデータ化しているため、学級の実態に応じて対応していきたい。 ・ありがとうメッセージカードの多少で、悲観するような子供がないように、学級で、みまもっていくように努めたい。 ・リレーショントレーニングやエンカウンター的な活動も取り入れる。 ・QUテスト結果を生かすようにする。
	○特別活動	子ども主体の児童会活動の充実	集会活動や縦割り班での活動などに楽しく参加することができる児童を90%以上にする。	・拡大代表委員会を開くことで、見通しや期待感を持って集会活動に取り組むことができるようにする。 ・自分で楽しい集会や縦割り活動をつくっていけるよう、創意工夫ができる場を設定する。 ・活動の振り返り(かがやきポケット)を行うことで、互いのよさを認め合うことができるようにする。	A	・アンケートで、進んで委員会の仕事をしたと答えた児童が93%、縦割り活動を楽しんだと答えた児童が95%だった。児童会活動に意欲的に取り組ませることができた。 ・拡大代表委員会を開くことにより、課題意識をしっかりと持たせ活動させることができた。 ・活動の振り返り(かがやきポケット)を行うことで、達成感や達成感等を味わわせることができた。	・様々な児童会活動において、自分たちで計画を立てる段階を十分に行わせる。そのことにより、見通しや期待感をもたせ、進んで実践ができるようにさせる。 ・感想交流や振り返りの場で、自他の頑張りや自分の思い等を積極的に表現することができるように、日常の指導とも関連させながら手だてをとる。
③ 強い体・耐える力を育む							
教育活動	○生徒指導	あいさつ・返事の習慣化	・あいさつと「ありがとう」返事ができる児童を90%以上にする。 ・地域においても元気よく挨拶ができる児童を育てる。 ・全児童が元気よく堂々と返事ができるようにする。	・交通指導員さん、北明っ子見守り隊の人、家族や地域の人に挨拶をすることや、道路を横断した後には止まってもらった車に「ありがとう」と言うことを、全校に指導する。 ・全校朝会、集会、地区児童会、授業中など常時継続して挨拶や返事について声をかけ奨励していく。 ・児童の自主的活動として、あいさつボランティアを募り、あいさつ運動を行う。 ・挨拶や返事が素晴らしかった児童を随時紹介し、意欲を高める。	A	・挨拶については全校朝会や地区別下校など機会を見つけて指導を行った。また、あいさつボランティアについても継続して呼びかけを行い、写真を廊下に掲示するなどして意欲喚起を図った。その結果全校児童の144名のうち139名の児童がボランティア位に参加した。その中には毎日継続してあいさつ運動を行う児童も現れた。	・学校外での挨拶については依然として個人差が大きかったり、挨拶しても声が小さかったりする児童がいる。児童への指導だけでなく、保護者の意識を高める手立てが必要。
	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	・「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムが整った児童を90%以上にする。 ・口腔衛生に興味を持たせ、丁寧な歯みがきをする習慣の定着を目指す。	・集会や放送等での保健指導と保健だよりを活用し、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムの大切さを児童や保護者に理解してもらい行動につなげることができるように啓発する。 ・保健室来室者や「すこやかチェック」を実施し、生活習慣の改善が必要な児童への個別指導を行う。 ・歯みがきは「歯の健康」のみではなく、感染症予防にもなることを啓発し、口腔衛生の向上につなげる。 ・学校歯科医等によるブラッシング指導を計画し、正しい歯みがきの仕方を身につけさせる。	A	・保健だよりや掲示物、発育測定時に生活リズムの大切さについて繰り返し指導をした。毎週水曜日に行っている「すこやかチェック」では、朝食の欠食はほとんどなかった。就寝時刻については、90%以上が守れていたが、就寝時刻が遅い学年もあるので指導の継続が必要。 ・11月に学校歯科医による「歯の講話」と歯科衛生士による「ブラッシング指導」を実施し、発達段階に応じて専門的な指導が行えた。ブラッシング指導時の染め出しの様子では、「みがいている」けど「みがけていない」児童には意識付けとなった。また口腔衛生に関して保健だよりに載せ、家庭へ啓発を行った。	・「早寝・早起き・朝ごはん」に関して発育測定の時間に学年に応じた内容で指導をする。保健室来室者には、個別の指導を行っていく。 ・歯科検診や集会で、歯みがきがむし歯だけでなく、全身の病気の予防や感染症の予防につながり、正しいブラッシングで健康習慣を身につけるようにする。ブラッシング指導を授業参観時に計画し、保護者への啓発も行っていく。
		運動習慣の改善や定着化	・20分休みや昼休みに外で遊んでいると答える児童を85%以上にする。 ・スポーツテストの各学年における平均値が県の平均値を超える。	・運動委員会と連携を取り、遊びの企画を毎月提案する。 ・ロードレース大会の前の2週間に全児童が運動場を走る機会を設ける。また、自己目標を設定させることで、自ら意欲的に活動できるようにする。	B	・ドッチビー大会や北明オリンピック(ボール投げや50m走)など、運動委員会主催の遊びや活動を毎月実施することができた。 ・かけっこタイムでは、記録達成者を廊下掲示板に書くなどの取り組みの結果、朝や昼休みにも自主的に走る児童が増えた。 ・休み時間に外で元気に遊んだと感じた児童の割合が8割弱にとどまった。	・運動委員会主催の遊びや活動の前に、練習日を設けたり、大縄跳びなど継続して活動できる種目にするなど、内容の精選が必要である。
	○教育相談	教育相談体制の構築	・児童の困り感や心の変化を早期に見出し、迅速な対応ができる校内体制を整える。	・毎日の児童観察や会話を通して、児童の些細な変化に気づくことができるようにする。 ・毎月全児童に「心のアンケート」を実施し、担任・管理職・関係職員で実態把握と対応を行う。 ・教育相談週間を10月に実施し、担任と児童が話をする機会を設けより信頼関係が構築できるようにする。 ・SCによるグループエンカウンターなどの授業を実施する。 ・教育相談だよりを月1回発行し、カウンセリングを利用しやすい環境を整える。	A	・毎月「心のアンケート」を実施した後、各担任が配慮すべき児童に対応して、児童の心の安定につなげることができた。また10月の教育相談週間では、全児童が担任と1対1で話をする機会ができ、担任は児童理解に努めた。アンケートの集約や実施後の気づきをまとめ、関係職員で実態把握と対応ができた。 ・SCによる授業を2年生で行った。6年生には卒業前に中学生に向けての心の成長について話をしていた。SCの来校予定や、心の健康について教育相談だよりを発行したり、担任から勧めでカウンセリングにつながっている。	・毎月の「心のアンケート」や年に1回の教育相談週間は、今後も継続して実施する。 ・SCによるグループエンカウンターなどの授業を、各クラス1回は実施するよう計画を立てる。

教育活動	●いじめ問題への対応	いじめの未然防止と早期発見	<ul style="list-style-type: none"> いじめや不登校の根絶を目指して、温かい人間関係を構築し、児童一人一人がお互いの個性を認め伸ばし合う学級経営や道徳教育を充実させる。 問題行動の早期発見、迅速な対応を目指す。 いじめをしない思いやりの気持ちで友だちと過ごすことができる児童を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> Q-Uを年2回実施するとともに、長期休業中に各学級の実態について把握し、全職員で共有する機会を持つ。 いじめ・不登校未然防止のためにチェックリスト等を活用する。 管理職、生徒指導主任への報告、連絡、相談を密にし、問題行動への初期対応を充実する。 週一回の職員連絡会で生徒指導について全職員で情報交換を行い一人で抱え込まない体制をとる。 心のポストを設置し、投函について毎日確認し、いじめの早期発見、早期対応に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> Q-Uは計画通り実施し、各学級の実態について共有する機会を持つことができた。 いじめ、差別の防止に努め、共に支え励まし合える子供の育成に努めた。 朝の登校状況などから不登校傾向を示す児童に対しては保護者・担任・管理職・関係職員で早期対応に努めた。 アンケートでの回答では人をいじめなかったという児童は、だいたいできたを含め90%であった。 全児童へ「きてくださいカード」心の相談ポストの紹介をいつでも誰にでも相談できることを伝え、毎日ポストの確認をし投函があった際は対応を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> Q-Uは今後も実施し、学級の実態把握に努める。 いじめの未然防止につながるように学級経営や道徳教育を充実させる。 いつでも誰にでも相談できる状況であることを児童に伝え対応していく。
	○特別支援教育	特別な支援を要する児童への学校全体による支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学級担任だけでなく、学校全体として支援を行える体制を構築する。 児童一人一人の実態に応じた適切な指導・支援を行う。 教育相談と協力して指導・支援を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職、教育相談担当、生徒指導主任、保護者への報告、連絡、相談を密にし、問題行動や児童の困り感への初期対応を充実する。 職員会議で支援の必要な児童について情報交換を行い、一人で抱え込まず全職員で支援する体制をとる。 個別の指導計画及び教育支援計画を、普通学級担任と特別支援学級担任とで協力して作成し学期ごとに見直しや改善策を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職、教育相談担当、生徒指導主任、保護者への報告、連絡、相談を密にし、問題行動や児童の困り感に、協力して初期対応をとることができた。 支援の必要な児童がいたら職員会議や連絡会で情報交換を行い、早めに共通理解のもと対応することができた。 個別の指導計画及び教育支援計画を、普通学級担任と特別支援学級担任とで協力して作成し学期ごとに見直しや改善策を立てた。児童の様子も落ち着いてそれぞれの学習をすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援の必要な児童についての個別の指導計画、教育支援計画、引継ぎシートを確実に記入し、活用していくことで計画的で連続した支援をできるようにしたい。
学校運営	○危機管理体制	児童の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 大雨や台風、地震、大雪、不審者事案等、実際の事例や事象に基づいて指導し、防犯・防災の意識を高める。 安全な避難に重点を置いた危機管理体制の充実を図り年3回訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全ボランティアと協力し校区をあげて安全指導に取り組む。 PTAと連携を図り通学路の危険箇所点検を行い、通学路の安全マップを更新する。 まちこみメールを活用し、緊急時等の連絡を速やかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全ボランティアの御協力で、大きな事件・事故等なかった。 PTAと協力し、通学路の交差点に注意喚起の看板やストップマークの設置、改修等ができた。 まちこみメールを全保護者に登録していただき、緊急時の連絡体制を整備することができた。 年3回避難訓練を実施し危機意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 危険箇所は毎年変化していくので、常時見直しを行っていく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

学校運営	○地域との連携強化	コミュニティ・スクールの充実	<ul style="list-style-type: none"> 運営協議会の委員だけでなく、老人会、民生委員、公民館、婦人会等、校区内の各団体との連携を強化する。 地域ボランティアや外部人材を活用した学習を年1回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、校区内の各団体の会合に管理職が出向き、学校行事等への協力を具体的に依頼する。 地域の方々に協力をいただいた取組みを、学校HPや学校便り、コミュニティ・スクール便り等により、積極的に情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 老人会の例会に赴き、日頃の見守り活動の御礼や行事へ参加依頼等ができた。 地域ボランティア等を活用した学習を学年1回以上実施した。 コミュニティ便りを2回発行し地域に配布するとともに、学校HPにも掲載し、情報発信ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域ボランティアや外部人材を活用した学習については、負担感のある学年もあったので、年間計画を見直し、調整をしていく。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務効率化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり前年度比5%削減する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教職員の勤務時間を確実に把握するとともに、特定の教職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。 毎週の定時退勤推奨日を実施する。達成率をモニターに表示し、意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議議題に働き方改革に関する項目を起し、職員の意見を聞く機会を設け、その都度改善をするようにした。 教職員の時間外勤務については4月以外は月平均45時間を下回ったが、前年比7%増で目標を達成できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランスに関する研修を行う等、さらに職員の意識を高め、時間外勤務の縮減に努めたい。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目

4 本年度のまとめ・次年度の取組

- 保護者アンケートでは、本校の教育活動について全項目で「概ね達成」以上の評価であった。
- 学力向上については「家勉強週間」が定着し、大きな成果をあげることができた。
- 「あいさつ」については、「あいさつボランティア」など、様々な工夫をして成果は上がってきている。さらに地域での元気なあいさつが定着するよう工夫をしていく。
- 業務改善・教職員の働き方改革の推進については、時間と場を設定し改善に向けた話し合いを行ってきたが、時間外勤務については目標を達成できなかった。さらに、行事精選と教職員の意識の向上を図っていく。